

破牆は是れ萬里長城の一角

蘭州の狀況

故に高低甚しく平時車輛は皆河中を行けり。河中所々に低き土堤を設く出水の時、水泥の流れ來るを此所に留めて後ち乾泥と爲せは、最も阿片を作るに適すと云ふ。小水子附近には煙草を培ひ東崗舖以西に到りて其量頗る多し、又小水子及山園子の坡上は牧羊甚た盛なり。黄河の南岸、小水子の西方に一の破牆あり。土人曰ふ萬里の長城と。其の幅一米突乃至二米突高さ十數米突。而して小水子附近の河水は、尙ほ含鹽強きに因り、飲むこと能はざるも、蘭州附近に於ては、黄河の水飲み得べし。

蘭州城は西安以西第一の大都會にして蘭州平野の西隅に位置し、東は一小川を隔て、隴山支脈を仰ぎ、西は桑園子嶺、南は五泉山、北は黄河を挾んで北塔山に對し。人戸數萬、商況旺盛、磚製の城壁を以て之を繞らす。官衙には總督、藩臺、臬臺、阜陽縣の各衙門等、學校には文高等學堂、武高等學堂、中學堂、師範學堂各一個、小學堂十個、外人には英、佛、米の宜教師、何れも一名、邦人三名（岡島誘、高橋）の高等學堂に教鞭を採る外城北、黄河鐵橋架設計の爲め、英、佛、獨人各一名滞在し在り。聞く七十餘萬兩を以て該工事を竣成する約成れり。